

人口推計の考え方

1. 人口推計方法

人口推計の方法

市町村の将来人口推計にあたっては、数学的方法、社会経済指標の推計値を用いる方法、移動マトリックス法、世帯年齢分布法、コーホート法などの方法があります。

現在、国の機関（国立社会保障・人口問題研究所）をはじめ、各自治体ではコーホート要因法を一般的に採用しており、本計画でも同様の手法を採用することとしました。

コーホート法とは

コーホートとは、一定の期間内に生まれた集団を意味します。

コーホート法には、コーホート要因法とコーホート変化率法の2種類があります。基本的な考え方は同じですが、コーホート変化率法は2時点におけるコーホート変化率を用いるのに対し、コーホート要因法は、コーホートの変化分を死亡数（生残率）および人口移動数、出生に分離して行う方法です。

2. 計画にあたっての人口推計

推計方法

将来人口の推計にあたっては、コーホート要因法を用いて行いました。

平成12年（2000）及び平成17年（2005）の国勢調査結果の性別・年齢5歳階級別人口を基礎に、その間の人口変動要因の数値が将来も変わらないと仮定して推計しています。

将来人口推計

平成12年の国勢調査5歳階級別人口と平成17年の国勢調査5歳階級別人口を基にコーホート要因法による人口推計を行いました。

推計結果は2通りあり、1つは社会移動趨勢型人口推計で、これは平成12年から17年の間のトレンド推計によるものです。2つめの社会移動封鎖型人口推計とは、市外との社会移動がまったくないと仮定し、死亡率のみをかけて算出したものです。

本計画では、社会移動趨勢型人口推計を示しています。

【社会移動趨勢型】

人口の社会移動による各コーホートの推移率を将来とも同じと仮定した将来人口推計。出生数は、出産年齢の女性人口の各5歳コーホート（15歳～50歳）に合計特殊出生率（地域補正を行ったもの）を乗じて求める。

【社会移動封鎖型】

人口の社会移動を封鎖した場合、地域内に居住する人口の純粋な出生・死亡による将来人口推計。出生数は社会移動趨勢型と同様の方法で求め、各コーホートの生残数は全国平均のコーホート別生残率を乗じて求める。

平成 17 年国勢調査結果による人口 41,009 人

人口推計の人口（平成 17 年） 40,995 人

この 14 人の差は、年齢不詳による調査対象者が含まれていないことによる。